

折に触れ 四字熟語

NO.7 〔天無二日〕 てんむ にじつ 〔土無二王〕 とむ におう

< 意味 > 天に二つの太陽がないように、一国に二人の君主があってはならない。

< 出典 > 「礼記」 <曾子問第七>

曾子問曰、喪有二狐、廟有二主、禮與。孔子曰、天無二日、土無二王、嘗禘郊社、尊無二上。未知其為禮也。

読み下し：『曾子問ひて曰く、喪に二狐有り、廟に二主有るは、禮か、と。孔子曰く、天に二日無し、土に二王無し。嘗禘郊社に、尊、二上無し。未だ其の禮たるを知らざるなり。』

通 釈：曾子「喪には二人の喪主があり、廟には二柱の神体がある、と申しますが、それは礼にかないましょうか」。孔子「天に二日なく、地に二王が無いように、嘗・禘・郊・社などの祭において、尊んで祭る神は（それぞれの祭において）一柱である。それゆえ（二人の喪主や二柱の神体が）礼にかなうとは思われない。

一 言：「China2049」シリーズその1

またまた嬉しいことに、このコーナーを読んでいた方からマイケル・ピルズベリー著「China2049」（日経BP社発行）という書籍をご紹介いただき、その中で引用されている四字熟語を取り上げてくれないか、という要望が寄せられました。

早速取り寄せてみましたら、11の章のうち、9つの章の見出し部分に、主として「兵法三十六計」を出典とした四字熟語が引用されていました。書籍の中味の案内については、ご紹介いただいた方に任せるとして、資料が揃えられる四字熟語のいくつかをシリーズにして取り上げて行きたいと思います。最初は第一章「中国の夢」にある四字熟語です。

なお、土無二王については、書籍では（どむにおう）とルビが振られていますが、出典にならない（とむにおう）としました。

ちなみに、この熟語は礼記の他の部分にも見られます。

<喪服四制第四十九>

資於事父以事母而愛同。天無二日、土無二王、國無二君、家無二尊。以一治之也。

『父に事ふるに資りて以て母に事う、而して愛同じ。天に二日無く、土に二王無く、國に二君無く、家に二尊無し。一を以て之を治むるなり。』

参照文献：新釈漢文大系「礼記」